

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	畜産振興事業	会計	一般会計	事業No.	387	施策順No.	11-012
		事業種別	政策・その他	予算科目	6-1-6-10-1		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	農業課		
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	畜産関係者・団体						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		畜産農家数:戸	169	159	143	128	183	
	意図	畜産の振興及び施設の整備を図る						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	ふん尿処理施設設置農家数(件)	141	141	141	141	141	141	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	畜舎等が適正に維持管理できるよう、環境対策にかかる費用について補助をしてきた。また、養豚場の臭気対策にも、地区住民と関係団体等の間に入り問題解決に提案、助言等を行ってきた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>1 負担金、補助金の支出、調査委託 管内の畜産状況を把握するとともに畜産に係わる基礎資料を作成するため畜産畜種別飼養実態調査を実施する。</p> <p>2 畜産環境対策 畜産農家は家畜排せつ物の施行に伴い、家畜排せつ物の適正管理を行うための施設整備を実施してきたが、施設修繕箇所が増えてきているとともに、多頭化に伴う施設増築の要望等があがってきている。また、農住混在化により、畜産に起因する苦情(ふん尿の不適切処理に伴う悪臭苦情)が増えてきているため、良質堆肥生産を推進し耕畜連携を強化するため、ふん尿処理施設の整備(改修を含む)を行うと共に、悪臭苦情等の早期解決に向けた機器の整備を実施し、畜産経営環境の改善を図る。</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<p>1 畜産畜種別飼養実態調査 調査対象畜産農家数 158戸</p> <p>2 家畜防疫推進事業 研修会参加・事務費</p> <p>3 無獣医地区家畜診療事業負担金(上村・南信濃地区)</p> <p>4 飯伊家畜畜産物衛生指導協会への参加</p> <p>5 堆肥舎整備に関する支援(改修を含む) 事業費×1/2 (上限100,000円)</p> <p>6 臭気センサーの導入補助 347,300円×1/2</p> <p>7 畜産振興事業 (株)長野県食肉公社飯田支社へのと畜料補てん、内臓水洗料金補てん</p>	<p>1 実態調査</p> <p>2 防疫会議開催数</p> <p>3 診療回数</p> <p>4 幹事会等開催数</p> <p>5 施設整備件数</p> <p>6 補助件数</p> <p>7 補助件数</p>	<p>1 1回</p> <p>2 3回</p> <p>3 1回</p> <p>4 4回</p> <p>5 0件</p> <p>6 1件</p> <p>7 1件</p>
23年度実施計画	<p>1 畜産畜種別飼養実態調査 調査対象畜産農家数 158戸</p> <p>2 家畜防疫推進事業 研修会参加・事務費</p> <p>3 無獣医地区家畜診療事業負担金(上村・南信濃地区)</p> <p>4 飯伊家畜畜産物衛生指導協会への参加</p> <p>5 堆肥舎整備に関する支援(改修を含む) 事業費×1/2 (上限100,000円)</p>	<p>1 実態調査</p> <p>2 防疫会議開催数</p> <p>3 診療回数</p> <p>4 幹事会等開催数</p> <p>5 施設整備件数</p>	<p>1 1回</p> <p>2 3回</p> <p>3 4回</p> <p>4 4回</p> <p>5 6件</p>

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		1,321	808	721		
計(A)		1,321	808	721		
正規職員所要時間			240			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			858			
トータルコスト A+B			1,666			

4 事業に対する市民や議会の意見

安心安全な農畜産物を求める消費者の声が高まってきている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業者等が出荷額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	既存農業者の算出額(農業):億円
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	農業算出額の2割を占める畜産業では、各種振興事業を実施することによって農家の経営安定所得の向上につながっている。		
	後期に向けた課題	農家ヒアリング等による、効果的な畜産振興事業の検討、生産基盤の維持、拡大		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	農住混在による、畜産に起因する苦情が増えている為、糞尿処理施設の整備、悪臭苦情等の早期解決に向けた機器の整備、畜産経営環境整備費に補助制度を導入した。		
	後期に向けた課題	補助制度を多くの農家に知ってもらい、畜産経営環境整備を利用してもらう。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	経常的経費についての削減を行っている。また、国等の補助事業を有効に活用していく。		
	後期に向けた課題	防疫資材、機器の備蓄等を計画的に行う必要がある。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者には相応の負担を頂いており、上位目標達成に向け市の関わりは必要である。		
	後期に向けた課題	特に問題は無い。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	事業主体は畜産農家及び農業者団体。それぞれの主体により経営維持拡大の取り組みを行って頂いている。行政としてそれら農業者等へのヒアリングをするとともに、課題解決に向けた事業展開等を連携し行ってきている。		
	後期に向けた課題	防疫事業の推進等には、関連する事業者・農業者団体の協力が必要になり、体制づくりの整備について向上の余地がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	国、県等の補助事業への振替により農家の経営に最も有効な対策について協議を行ってきた。市単独事業については、国、県では包含できなかった部分について効果的な対策、構築が必要である。		
	後期に向けた課題	畜産農家並びに農業者団体等との連携により効果的な各種畜産振興事業の構築をはかる。新たな担い手確保と生産基盤の維持、拡大が急務の課題。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------